

抜き  
バ

時間停止能力を

手に入れて

露出オナニーを

満喫してたら

人生終了

しちゃった話



ハメット written by  
Hammett

時間停止能力を手に入れた女子○生が、  
秘めたる露出願望を最大限に解放つ！

駅で、通学電車で、通学路で、教室で……  
ド派手な全裸公開オナニーを見せつけ、  
下品な淫語をまきちらしてイキまくる！

体験版

## ■キャラクター紹介

あいはらみおん  
藍原美音



ごくごくふつうのどこにでもいる女子○生。

ほどほどの容姿、ほどほどの成績、ほどほどの交友関係。

ただひとつ他人と違うのは、とにかく性欲が強いということ。

お気に入りには指入れオナニー。めちゃくちゃに出入りしてイクのが好き。

最近、兄の持っていた露出系のエロマンガを読んで露出願望が芽生えた。

そんなときに突然、時間停止能力を手に入れたとなれば……!!

時間を十分間だけ止められて、そのあいだは自分のみ動くことができるとしたら、  
いったい人はなにをするのだろうか。

金品を不当に手に入れるとか、誰かを痛めつけたり性的ないたずらをしたりとか、  
とにかくなにがしかの欲望を満たそうとして、ふだんはできないようなことを存分に  
行なおうとするに違いない。

しかし、何度も自由に時間を止められるとなれば、選択肢はしだいに絞られていく  
はずである。

好き放題に金や物を手に入れて、気に入らない人間への復讐も思うさま果たした。  
となればもう、あとは尽きることのない欲求をひたすら満たそうとしつづけるばかり  
だろう。

そう、いうまでもなく性欲である。

男ならそのへんの気に入った女を裸に剥いて、動かない相手に面倒な愛撫などはす

る必要もないのだし、いきなりペニスをねじこんで腰を振り立て、気ままに膣内へと精液を注ぎ込んだら、そのまま捨て置いて立ち去るだろう。

女はそこまで単純ではないにせよ、まあ似たりよつたりかもしれない。

けれども藍原美音はそうではなかった。

金品にも興味がなければ、誰かに対してなにかをしようという気もまったく起こらなかった。

美音が時間を止めてやりたかったことはただひとつ。

——野外露出だった。

自分が時間を好きなタイミングで止められること、それが十分間にかぎられること、そしてそのあいだ、自分ひとりだけが自由に動きまわれることをしつかり何度も確認した慎重な美音は、ついにきょう、ずっと抱えていた欲望を満たすために時間を止めた。

美音は静寂のなかに立っていた。

つい数秒前まで朝の喧騒に満たされていた駅のホームは、一瞬でまったくの無音となった。

（うわうわっ、わたし、ついにやっちゃうんだ……こないっぱい人がいるところで……）

高鳴る胸を押さえながら、人混みをかき分けてホームの端まで歩を進める。

そうして向かいのホームを満たしている無数の人びとに見せつけるように、美音は学校の制服を脱ぎはじめた。

時間が十分しかないので、ゆっくりとストリップを楽しんでいる暇はない。

てきばきとブレザーを脱いで、ブラウスのボタンをいくつか外して頭から抜き、スカートを足元に落とす。

そしてブラジャーを素早くはずしてパンツを下ろし、靴下と靴だけを残して裸になった。

（はあああ……♡ すごいすごいっ、ついにやっちゃった♡ ラッシュのホームで全裸露出っ♡ 脱いだけでイキそうなくらい気持ちいい……♡）

膝を震わせながら、美音は少し腰を落としてガニ股になり、性器を突き出すようにする。

「ああっ、見てえ……♡ 美音のまんこ、中まで見てえっ♡」

すでに愛液がしたたるほどに濡れそぼっていた性器を指で開き、対面のホームの群衆に鮮やかな粘膜を見せつける。

「ひっ♡♡ 中まで空気が♡♡ あうっ、まん汁垂れるとここまで公開しちゃって  
る……♡♡」

誰にも見せたことがない裸身を、秘部を、何百人もの見知らぬ他人に向けていっせいにさらす快感に、美音はいまにも絶頂しそうだった。

ひそかに抱きつづけてきた露出願望を、はじめて、それも最高のかたちで成し遂げられたのである。

ぬめつく指先で陰唇をしっかりと開き、ひくひくとうごめく濡れ褌をさらしたまま、美音はゆっくりと身体を反転させた。

「やばっ、近っ……♡♡」

振り向いたすぐ正面に、スーツ姿のサラリーマンが立っていた。

「見て見て、おじさあん……♡♡」

自分でもびっくりするくらい甘えた声で媚びながら、美音は乳房を鷲づかみにして絞り上げる。勃起した乳首をサラリーマンに向けて突き出し、指先で押しつぶすよう

に転がした。

「えひっ♡ だめっ、乳首めっちゃ敏感になってる……♡」

至近距離からサラリーマンの顔を覗き込みながら乳首をひとしきりいじくると、美音はホームの奥へと進んでいった。

「みんな服着てるのにわたしだけ裸っ……♡ こんなのありえないっ、ありえないくらい気持ちいいっ♡」

粘っこい愛液の糸を幾筋も膣口から伸ばしたまま、美音は全裸で人混みをかき分けていく。

「あっ、やばいつ、うちの学校の子だ……」

見慣れた制服の男子に出くわして、思わずびくりと肩を上げる。

「……ふふっ、でも大丈夫♡ きみにもたっぷり見てもらっちゃう♡」

美音はその場にお尻をつくと、脚をM字に開いて股間を突き出し、男子生徒の目線の先で性器を限界まで押し広げた。

「きみ後輩くん？ わたしね、二年四組の藍原美音。処女なのに露出狂の変態まんこちゃんです♡ ほらほらっ、ちんちんぶち込んでもいいんだよ♡ なーんちゃっ

♡」

下品に腰をグラインドさせて、美音は男子生徒の足元に愛液をまき散らす。

「ああもうっ、オナニーしたいい……♡ でも、どうせだったらやっぱり……」

露出で性感を高めながら極限までがまんして、これ以上ないくらいに興奮する最高のシチュエーションで、思いつきりオナニーをしてイキたかった。

いつもするときのように中指と薬指を一気に奥まで突き入れてめちやくちやにかき回したい衝動を抑えつつ、美音はふらふらと立ち上がって再度ホームの端へと足を向ける。

（もう時間になっちゃう……早く服着ちやわないと……）

ホームの時計を見上げると、この場でもたもた着直している余裕はなさそうだった。

美音は脱ぎ捨ててあった制服と下着を回収すると、いったんそれをバッグへ無造作に突っ込んで、裸のままホームの階段をのぼりはじめた。

（これ、ぜったい下からまんこ丸見えだあ……♡）

急いでいるのに、そんなことを考えてまた膣口から淫らなよだれを垂らしてしまう。

（あああっ♡ 人がいっぱい、人がいっぱい……♡）



階段をのぼりきって早足でトイレへ向かっているあいだも、ホームと同様か、あるいはそれ以上に多くの人たちに裸身をさらしつづけ、興奮のあまり足がもつれそうになってしまふ。

やっとの思いでトイレの個室に逃げ込んだのと同時に時間が動きはじめ、美音は腰を抜かして便座にへたり込んでしまった。

(時間停止露出すごすぎる……これだけやってもリスクゼロ……好きなだけ全裸でどこでも歩けちゃう……♡)

じくじくうづく性器を刺激しないように愛液だけをトイレットペーパーで拭い、震える手でふたたび制服を身につけていく。

(いっか、どうせまた脱ぐんだし……)

手間も考えたと下着はつけなくてもいいと美音は判断した。

素肌ブラウスをまとうてブレザーを羽織り、ノーパンのままスカートを穿いて個室を出る。

(さつきと比べたらぜんぜんたいしたことないのに、下着つけてないだけでもけっこうくるな……)

周囲が停止せず、ふつうに誰もが動いているということもあって、これはこれで緊張と興奮がある。思えばこの程度のことさえも、いままでは勇気が出ずに実行したことがなかった。時間を止めていたとはいえ、いちど大勢のままで全裸になったことで、知らぬ間に美音はそうしたことへのハードルがずいぶんと低くなったらしい。

ホームへ戻ると、ときどきちらちらとこちらをうかがうような視線を感じる気がして、美音はひそかにぞくぞくしていた。

(下着つけてないのバレてないよね……？ ううつ、また早くまんこ広げて人に見せたい……)

スカートのなかで太ももを熱いしずくが伝うのを感じて、思わず腰をくねらせる。まもなくホームへと電車がすべり込んでくると、美音は人混みに流されるようにして車内へと乗り込んでいった。

車内はぎゆうぎゆうとはいかないまでも、さすがにだいぶ混んでいる。

(また裸になりたかったけど、ここで脱いだり着たりするには狭いかな……)

座席のまえに立って吊り革につかまりながら、それとなくあたりのようすに目を配る。

「ここでも脱げないことはなさそうだったが、もし場所を移動した場合、その先の混雑具合がわからなかったし、スムーズに戻ってこられる保証もない。かといって衣服を持っていったところで、移動した先で服を着られるほどのスペースを確保できるかもわからなかった。

(ここではがまんかな……)

内心嘆息しながらうつむくと、目のまえに座っていた中年サラリーマンと視線がぶつかった。

とたん、ずくんとおなかの奥がうずいて、熱いものがひと筋、性器から太ももへと流れていった。スカートの裾を通りすぎ、そのまま愛液は膝をかすめて垂れていく。

(やだっ、バレちゃう……止まって！)

——瞬間、すべての動きが静止した。

「あ……そういうつもりじゃなかったのに……」

意図せぬ時間停止に苦笑しつつ、いまだに目が合ったままの中年サラリーマンを見ているうち、むらむらと強烈な淫欲が腰の底から突き上げてきた。

「んっふ……♡ おじさん、そんなに見たいなら見せてあげてもいいよ……♡」

美音はスカートを持ち上げて、裸の下半身をサラリーマンの眼前でさらけ出した。

「これじゃよく見えないかな……あ、だったら——」

心のなかで行儀の悪さを詫びつつ、美音は片足を座席に上げて、開いた股間をサラリーマンの顔へと近づけた。

「あっ♡ あっ♡ これやばいっ♡ ぜんぶ見えちゃうっ……♡」

男性の鼻先で肉の割れ目を押し開き、美音は快楽に全身をわななかせる。

つづきは製品版で  
お楽しみください

## ■サークル「破滅乱淫オーガズム」作品一覧

\*2024年8月現在

### ◎既刊

- ① 委員長・静井莉子の露出自慰日記（優等生のカゲキないキぬき）
- ② ロリのふりして脱法露出！ 合法ロリでも外で脱いだら違法です!!
- ③ 露出体験告白1 イキすぎた公開絶頂
- ④ 着衣女性×露出男性 勃起見せつけ体験集1
- ⑤ 時間停止能力を手に入れて露出オナニーを満喫してたら人生終了しちゃった話
- ⑥ 露出体験告白2 痴女たちの全裸淫戯（全裸になりたいわたしたち 露出体験告白2）改題）
- ⑦ 身動きできない満員電車でロリたちに勃起を勝手に出されて射精させられた話
- ⑧ イメージビデオに出演したら挿入がないだけでほぼAVみたいな撮影だった話
- ⑨ 着衣女性×射精男性 勃起見せつけ体験集2

◎近刊

＊男は誰もがチンポの虜 兜合わせ体験集

＊怪淫譚 心霊絶頂体験集

＊露出体験告白3 公然のイキ恥さらし

＊娘がアダルトライブチャットをしていたのでエロirikエストをしまくった話

(近刊の発売順は変更になる場合があります)

★各電子書籍ストア、ダウンロード販売サイトにて発売中!

(ストア、サイトによっては規約の関係上、一部扱いない作品があります)